

令和4年度厚生労働科学研究費補助金(認知症政策研究事業)
併存疾患に注目した認知症重症化予防のための研究
分担研究報告書

COVID-19流行前後の処方実態動向に関する調査
—抗認知症薬処方の有無別の解析—

研究分担者 鈴木裕介 名古屋大学医学部附属病院 地域連携・患者相談センター

研究要旨

COVID-19 の流行による受診抑制や介護サービス利用の規制による認知症高齢者の症状への影響が示唆されている。本年度の研究では抗認知症薬の処方を受けている高齢者の処方内容の流行前後の変化について処方データをもとに考察した。2019年12月1日～31日、2020年11月1日～11月30日の各1か月間に全国の処方箋調剤薬局チェーンで調剤を行った全ての65歳以上の患者を対象に年齢、性別、処方薬剤数、日本老年医学会の高齢者に特に慎重を要する薬物リスト(PIMs)に含まれる薬物(用量)に該当する薬剤の処方状況、抗認知症薬処方の有無別の関連薬剤の処方率の変化について検討した。抗認知症薬処方有無に関係なく PIMs処方比率は顕著に増加し、その傾向は抗認知症薬処方群でより顕著であった。抗精神病薬の処方率は両群とも有意な変化はなく、ベンゾジアゼピン系薬剤の処方は両群とも流行後に有意に減少、非ベンゾジアゼピン系薬剤の処方は抗認知症薬非処方群のみ有意に増加が観察された。抗認知症薬処方患者に対する中枢神経系薬剤(PIMs 該当薬剤)の処方内容の変化は予想に反して観察されず、COVID-19 流行の認知症患者の心理行動症状への影響を考慮した場合、必要とされる処方に対する Unmet Needs の可能性も示唆された。抗認知症薬処方群において PIMs のより顕著な増加が中枢神経系薬剤など特定薬剤で説明できないことは、認知機能に問題のある高齢者の多病が背景にあると考えられた。

A. 研究目的

COVID-19 の流行による受診抑制や介護サービス利用の規制による認知症高齢者の症状への影響が示唆されている。抗認知症薬の処方を受けている高齢者(主に認知症と診断されていると解釈される)の処方内容が COVID-19 の流行前後にどのような変化したのかを調べ、その結果について考察することを目的とした。

B. 研究方法

2019年12月1日～31日(COVID-19 第3波

の流行前)、2020年11月1日～11月30日(流行後)の各1か月間に全国の処方箋調剤薬局チェーンで調剤を行った全ての65歳以上の患者を対象に年齢、性別、処方薬剤数、抗認知症薬の処方率、抗認知症薬処方の有無別に日本老年医学会の高齢者に特に慎重を要する薬物リスト(PIMs に相当する)に該当する薬剤の処方数、抗精神病薬、ベンゾジアゼピン系薬剤、非ベンゾジアゼピン系睡眠導入剤、抗うつ薬の処方率の前後比較を行った。

(倫理面への配慮)

対象となる高齢者に対しては研究の主旨を説明した上で同意を取得した。個人のデータは匿名化を行い守秘義務に対する配慮を行った。本研究は名古屋大学医学部生命倫理委員会において承認を受けて実施された(承認番号: 2019-0356)

C. 研究結果

PIMsの処方率は流行後に有意に増加したがその傾向は抗認知症薬処方群でより顕著であった。(表1)AD:抗認知症薬

表1		2019	2020	p value	OR
PIMs	AD (-)	42.9%	79.5%	<0.001	5.145
	AD (+)	63.6%	93.1%	<0.001	7.729

処方薬別では抗精神病薬の処方率は抗認知症薬処方の有無に関わらず流行前後で変化を認めなかった。(表2)

		2019	2020	p value	OR
Antipsychotics	AD (-)	0.2%	0.2%	0.769	1.015
	AD (+)	0.8%	0.6%	0.243	0.832

ベンゾジアゼピン系薬剤は両群とも有意に処方率の減少を認めた。(表3)

表3		2019	2020	p value	OR
Benzodiazepines	AD (-)	5.9%	5.8%	0.035	0.978
	AD (+)	8.0%	7.0%	0.006	0.872

非ベンゾジアゼピン系睡眠導入剤は抗認知症薬非処方群で有意に増加を認めた。(表4)

表4		2019	2020	p value	OR
Non-BDZs	AD (-)	4.5%	4.6%	0.037	1.025
	AD (+)	7.1%	6.9%	0.556	0.971

抗うつ薬は流行前後で有意な変化は認めなかった。(表5)

表5		2019	2020	p value	OR

Antidepressants	AD (-)	1.5%	1.6%	0.063	1.038
	AD (+)	4.3%	3.9%	0.1	0.897

D. 考察

COVID-19 流行後における PIMsの増加は抗認知症薬処方群でより顕著に観察された。抗認知症薬処方患者に対する中枢神経系薬剤(PIMs 該当薬剤)の処方内容の変化は予想に反して観察されなかった。この結果は COVID-19 の流行により認知症高齢者の心理行動症状の悪化を考慮した場合、投薬における Unmet Needs の可能性が危惧される。一方、処方ベースでは、抗認知症薬非処方群において非ベンゾ系睡眠導入剤処方率の有意な増加を認め、COVID 流行による診療(介護)環境の変化は非認知症群においてより大きかった可能性が示唆される。薬効別の解析では特定の薬効分類の処方増加で説明されない PIMs オッズ比増加を認め、抗認知症薬処方群における多病化傾向が PIMs の顕著な増加を説明する可能性がある。処方ベースなので臨床診断をかならずしも反映しないという今回の調査の限界がある。

E. 結論

COVID-19 流行後において PIMsの顕著な増加を認め、その傾向は抗認知症薬処方群(認知症の診断と推定される)においてより顕著であった。しかしながら PIMs に該当する中枢神経用薬の処方の増加は抗認知症薬処方群では観察されず、投薬における Unmet Needs の可能性が示唆された。

F. 研究発表

論文発表

1. Goto Y, Morita K, Suematsu M, Imaizumi T, Suzuki Y. Caregiver Burdens, Health Risks, Coping and Interventions among Caregivers of Dementia Patients: A Review of the Literature Intern Med. 2023 doi.org/10.2169/internalmedicine.0911-22
2. Suzuki Y, Shiraishi N, Sakakibara M, Komiya H, Akishita M, Kuzuya M. Potentially inappropriate medications increase while prevalence of polypharmacy / hyperpolypharmacy decreases in Japan: a comparison of nationwide prescribing data Arch

Gerontol Geriatr. 2022 Sep-

Oct;102:104733. doi:

10.1016/j.archger.2022.104733.

3. Umegaki H, Suzuki Y, Komiya H, Watanabe K, Nagae M, Yamada Y, Kuzuya M. Association between gait speed and errors on the Clock Drawing Test in older adults with mild cognitive impairment Sci Reports (in press)

1. 学会発表

なし

- G. 知的財産権の登録・出願状況(予定を含む)

なし